

3日 火曜

士師

1:1 さて、ヨシュアの死後、イスラエル人は主に伺って言った。「だれが私たちのために最初に上って行って、カナン人と戦わなければならないのでしょうか。」

1:2 すると、主は仰せられた。「ユダが上って行かなければならない。見よ。わたしは、その地を彼の手に渡した。」

1:3 そこで、ユダは自分の兄弟シメオンに言った。「私に割り当てられた地に私といっしょに上ってください。カナン人と戦うのです。私も、あなたに割り当てられた地にあなたといっしょに行きます。」そこでシメオンは彼といっしょに行きました。

1:4 ユダが上って行ったとき、主はカナン人とペリジ人を彼らの手に渡されたので、彼らはベゼクで一万人を打った。

1:5 彼らはベゼクでアドニ・ベゼクに出会ったとき、彼と戦ってカナン人とペリジ人を打った。

1:6 ところが、アドニ・ベゼクが逃げたので、彼らはあとを追って彼を捕え、その手足の親指を切り取った。

1:7 すると、アドニ・ベゼクは言った。「私の食卓の下で、手足の親指を切り取られた七十人の王たちが、パンくずを集めていたものだ。神は私がしたとおりのことを、私に報いられた。」それから、彼らはアドニ・ベゼクをエルサレムに連れて行ったが、彼はそこで死んだ。

1:8 また、ユダ族はエルサレムを攻めて、これを取り、剣の刃でこれを打ち破り、町に火をつけた。

1:9 その後、ユダ族は山地やネゲブや低地に



住んでいるカナン人と戦うために下って行った。

1:10 ユダはヘブロンに住んでいるカナン人を攻めた。ヘブロンの名は以前はキルヤテ・アルバであった。彼らはシェシャイとアヒマンとタルマイを打ち破った。

出エジプト後、カナン of 地に入ったイスラエルでした。その後神を忘れては苦難となり主に助けを求め、主が召した士師によって助けられてはまた主を忘れる…という連続でした。その不信仰とさばきとが士師記のテーマです。

ここではユダたちがいかにしてエルサレムなどを攻め取ったが記されており(1~15)、主の約束を信じてチャレンジする者には勝利があることが証されています。

しかしながら戦車を恐れるなどして敵を追わなかった場合(19, 21)は悩みの種を残すことになりました。主の約束を得るためには、主を信じてチャレンジし、勝ち取るのだと知りましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

